

令和3年度鳥取県パートナー県政推進会議の開催結果について

令和3年12月1日
新時代・SDGs推進課

「県政は県民のパートナー・地域のパートナー」であることを原点として平成25年に制定した鳥取県民参画基本条例の基本理念に基づき、県政への県民意見の反映や県民と県政との協働のあり方について議論を深め、施策の改善を検討するため、令和3年度鳥取県パートナー県政推進会議を開催しました。

- 1 開催日 令和3年11月6日（土）午後3時から5時まで
- 2 場所 災害対策本部室、西部総合事務所災害対策室、その他オンライン参加
- 3 出席者 委員13名（名簿のとおり）、知事、令和新時代創造本部長
- 4 テーマ ポストコロナ時代における鳥取県の地域づくり
- 5 主な意見等

- ・県のホームページは、見にくさ、壁があると感じる。子どもや高校生がもっと気軽にみられるページがあればよい。（伊藤委員）
- ・鳥取が日本のためにできることがたくさんあると思うので、メディアなどでもっと鳥取のよさ、鳥取の課題解決の仕方などそういったことをどんどん発信していきたい。（貝本委員）
- ・鳥取は面白い活動をしている人が多いが発信できていないので、オンライン上の掲示板のような発信できる場所があればいいと思う。デジタル格差の支援のために高齢者と若者がつながる取組が必要。（井手委員）
- ・アナログ人間をデジタル人間にするため、スマホ教室を開催している。境港市の老人クラブのホームページも3年前から立ち上げた。都会に出ている子や孫たちに元気にやっていることを伝えられるし、ホームページを見た子たちが鳥取を宣伝してくれればいいと思う。（川口委員）
- ・コロナ禍で感染防止対策をしながらの経済活動の両立は厳しく、地域でどのように旅行者の方を受け入れたらいいのか悩んだ。鳥取県のWe Love 山陰キャンペーンはものすごくありがたく、事業者を信頼した制度設計になっていると思う。自動運転のタクシーやUber等を早く取り入れて高齢者が元気で出かけられるようなシステムが必要。（井上委員）
- ・鳥取は砂質が最高で、いいビーチがたくさんあるがうまく使われてないところもあるので、今後もっとビーチを活用して欲しい。（辻昌宏委員）
- ・鳥取に住んでいると気づかないものが多く、PRがなかなかうまくできていないことが数多くあると思うが、それを県外や世界にPRしていくことが大切。コロナが落ち着いて、インバウンドが再開すれば鳥取はどんどん栄えていける。（黄委員）
- ・鳥取には素材が本当にたくさんあるので、1回来ればリピーターになって、いずれは住みたいと思う方も含めていろんな形で鳥取県に人を呼ぶことができると思う。（高岡委員）
- ・就農はとても大変なので、自分が苦労した就農へのハードルをもっと下げたい。（前田委員）
- ・子ども食堂が必要になってきているのは、ひとり親になられることが一番の要因と感じるので、ひとり親にならないよう、育児に携わる人の気持ちを楽にさせる支援も必要。（辻洋江委員）
- ・関係人口を創出するにあたって、まずは鳥取に興味がない人に興味を持ってもらうことが大事なので、そのきっかけとしてSNSを使って鳥取の魅力を広めるべき。（澤委員）
- ・地球温暖化対策のため、自治会で子どもエコクラブを作り、子どもから大人まで一緒になって活動しているほか、今年は環境コースを作り、中学生に地域活動に参加してもらい交流を図ることで、将来地元に戻ってもらえるよう交流を深めている。（西村委員）

6 今後の予定

会議でいただいた意見や提案について、県施策への反映を検討する。

